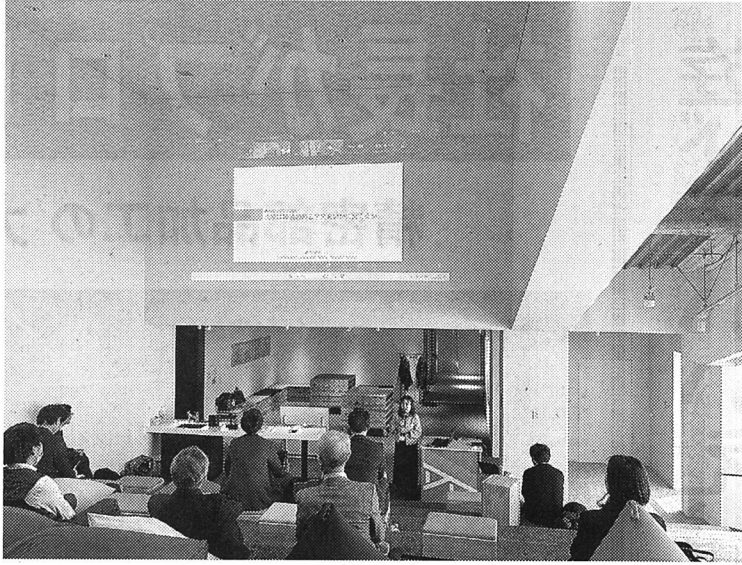


ステーションAiに

産学交流拠点

日本福祉大学

日本福祉大学は4月1日、名古屋市長和区の「ステーションAi(エーアイ)」に産学交流拠点を立ち上げる。研究報告会やサロンを開き、交流を一段と加速させる。同大の知見をもとに社会福祉分野を中心に課題解決を図るとともに、企業や他大学との連携により研究の充実につなげていく。(半田・倉科信吾)



センターでサロンなどを開く

研究報告会、サロンも



小松理佐子
センター長

これまで研究発表は学会や学内が中心。スタートアップや大企業、大学が集積するステーションAiに拠点を置き、情報発信することで、さまざまな企業や大学と連携する機会が生まれる。同大では準備委員会を立ち上げステーションAi開館時から入居していた。新設する産学交流拠点「スタートアップセンター」では健康経営や生活保護、障害者雇用、高齢者介護、ノーマライゼーション、移民問題などのテーマで報

告会やサロンを随時開く。一般企業でも働きながらの介護や障害者の雇用・能力開発が問題となっており、センター長を務める小松理佐子副学長は「本学の知見を発信し、企業のウェルビーイングに貢献していく」と話す。

また、同大が取り組む農福連携や障害者支援システムなどの課題について発信していくことで、解決につながる知見を持つ企業や大学と出会う機会を模索する。

センターの運営委員会は教員11人で構成し、社会福祉学部をはじめ全9学部(4月開設の工学部含む)が関わる。ウェルビーイング工学研究センターや健康科学研究所など同大の研究機関とも連携していく。

小松センター長は「社会福祉の知見を社会に広く普及させていくとともに、本学の研究にも変革を起こしていきたい」と意欲を見せる。